

地域とともにある
学校づくり

えべつ型コミュニティ・スクール

えべつCS通信

江別市教育委員会 教育部 総務課



「えべつ型コミュニティ・スクール」のアンケート結果

江別市で平成29年に導入したえべつ型コミュニティ・スクールの学校運営委員の任期は2年です。令和3年3月で任期満了を迎えたことから、今後の参考にするために、各学校で学校運営委員長を務めていただいた方に、アンケートに答えていただきました。

なお、今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、学校運営委員会が書面開催であったり、様々な行事等が制限されたこともあり、「評価が難しい項目については、無回答でも結構です。」と付記しています。

また、2年前の平成31年にもアンケートを行いましたので、その結果（評価）も掲載し、比べてみました。

評価基準

4→大変よかった。or 優れた実績を上げたと思う。 3→よかった。or 達成できたと思う。
2→あまりよくなかった。or 達成されなかったが、達成に近い実績を上げたと思う。
1→よくなかった。or 達成されなかったと思う。

| No | 内 容 | R3 | H31 | 差 |
|----------|------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|------|
| 1 | (機能① 学校運営への参画) 学校が抱える諸課題について、熟議（話し合う場）が十分に持た。 | 3.2 | 3.2 | — |
| 2 | (機能② 学校支援) 学校支援（各種ボランティアからの支援）については、学校運営委員会に調整の機能が位置付けられているが、その機能を果たしていた。 | 2.7 | 2.7 | — |
| 3 | (機能③ 学校関係者評価) 学校関係者評価（学校の自己評価を関係者評価）を効果的に行うことができた。 | 3.1 | 3.5 | -0.4 |
| 4 | 学校運営委員の構成（人数、推薦分野、男女比等）は、適切であった。 | 3.4 | 3.3 | 0.1 |
| 5 | 学校運営委員会の回数（マニュアルでは3回を想定）は、適切であった。 | 3.3 | 3.5 | -0.2 |
| 6 | 教育委員会は、「えべつCS通信」を7号（H31=R元年度4号、R2年度3号）発行したが、「えべつ型コミュニティ・スクール」の理解浸透に役立った。 | 2.9 | 3.0 | -0.1 |
| 7 | 学校は、保護者・地域に「えべつ型コミュニティ・スクール」の理解を得るために、ホームページや学校だよりなどで情報提供に努めていた。 | 3.4 | 3.2 | 0.2 |
| 8 | (総合評価) 学校運営委員会を設置し、「えべつ型コミュニティ・スクール」を導入した効果があった。 | 3.1 | 3.1 | — |
| 回収（25校中） | | 21校 | 22校 | |

「学校関係者評価」に関する項目で数値が前回より0.4ポイント下がっています。次ページに掲載した「要望・意見等」にも、「評価ばかりに時間をとられている」「委員会ですら評価していいのかわからない」とのご意見をいただきました。学校関係者評価については、えべつCS通信の3号、7号でも説明していますが、学校運営委員会がスタートした時に、新たに組織を立ち上げるのではなく、評議員、関係者評価委員会の二つの制度を包含し、兼ねる形で学校運営委員会に移行した経緯や評価のポイントなども含めて、改めて、学校運営委員会の方に周知してまいります。

えべつ型コミュニティ・スクールの具体的な導入効果と要望・意見について

【お断り】 紙面の都合で、一部、ご意見をまとめさせていただいています。

【具体的な導入効果】

- 学校の状況を理解する機会であり、地域の状況を話す場にもなっている。
- 地域住民が学校運営に参加する機会が増え、学校との連携が深められた。
- 学校の課題や教育方針について、各層の運営委員が理解を深めた。
- 学校からの現状説明から、学校と地域の密接な連携が伺えた。
- 地域、PTA、学校が子ども達の現況に対して率直に感じたことを出し合い、子ども達の成長している姿、サポートすべき課題について、理解が深まった。学校からの資料の提供（ビデオ、調査結果など）に感謝する。
- これまで学校に関わっていた地域の各団体が組織的に情報交換し、学校運営に協力する体制ができています。
- ボランティアの必要性が地域の人に伝わる。
- 学校運営委員と保護者も参加し、市にも協力いただいて、防災学習の一つの「CS防災教室」として、生徒と共に地域住民の視点でコロナウイルス感染防止対策も含め、実施できた。
- 放課後学習会など良い取組について後押しをすることができた。



「野幌中のCS防災教室」 道新の記事から

【えべつ型コミュニティ・スクール全般についての要望・意見等】

- 具体的な課題の解決策や学校と地域の連携の手法を深める話し合いができればよい。
- 地域に開かれていく姿が見えてきたが、コロナですべての行事が縮小され、何年も前に引き戻された。この状況で「開かれる」とはどういうことか。大変難しい課題となった。
- 学校運営委員会としての独自の学校支援ができなかった。今後、何らかのアクションを起こすための手本となる実践例を提示していただければと思う。
- まだCSを知らない人が多数いる。まずは、CSを多くの人に知ってもらうことに力をいれないと、理解を得るなど到底無理である。学校が地域と家庭との距離を取り過ぎた。
- 学校と地域との連携が強まった。地域自治会等との連携の強化について、もっと考慮すべき点があると思うが、今後の検討課題としたい。
- 市の教育行政についても、話題にのせることも有意義だと思った。
- このシステムは始動したばかりであり、その機能や成果を判定できるまでには至っていない。市、教育委員会、学校、地域等、その創意により、具体的な活動の発展が今後の課題となる。
- 地域から、学校との関係は密であり、良好である。
- 地域が主体的に学校と関わるしくみづくりが今後も課題である。教職員が地域に何を求めるのか正直に伝える必要がある。学校のニーズがあってこそその地域の力である。
- 地域の人と普段接することがない中、話をする場になって、とても有意義で、毎回参加が楽しみである。各長（自治会長など）だけが集まっているが、もう少し広く来てもらったらいい。学校の評価ばかりに時間をとられているが、他のことも話し合えれば良い。
- コロナ禍で、会議が中止された為、アンケートの評価を低くつけた。「関係者評価」は、何の為にしているのか、委員会でどう評価していいのか、理解できない。保護者でCSを知っている人は少ないと思う。もっと活用できるようにしたらいいと思う。
- 学校行事に保護者が参加出来ず、学校・家庭・地域が連携、協力しにくい状況下だが、子ども達を地域全体で育てる仕組みづくりに協働していきたい。
- 生徒会代表との交流会を年に1回程度、持てないものかメンバーと検討していきたい。教育委員会の支援を期待する。



いただいた要望・意見については、今後のえべつ型コミュニティ・スクールの活動に、可能な限り、取り入れてまいります。